

日本語の文に話題と主語の使用の分析

序論

文は主語、述語、対象語、状況語の形で文の構造を持っている必要がある。文の構造は統語論に含まれている。高田によると(1990:68) 統語論では理論的な問題として文の構造をどのように記述するかという問題を含む。

文の構造(統語論)のほかに、文の意味を析する、意味論も含まれる。佐久間による(2004:95) 意味論では、言語の性質を、意味の側面に着目して考察する。

日本語の文の構文は状況語、主語、対象語と述語から成る。牧野・筒井によると(1995 : 25) 主語では 普通日本語の主語は助詞 「が」 でマークされる。続いて、文が話題です。理論の主語は助詞 「が」 によってマークされていることで理解することができる、そして、文の話題は助詞 「は」 でマークされている。

川島 (1999:34)によると 助詞「が」の主な機能は主語を強調する。しかし、助詞「は」も同じく 特別な機能を持っている。

文の中でも、話題の文がある。文は主語と話題を持っている必要が

あるが、時には話題は文の主語として重なることができる。話題を理解した上で牧野筒井(1995:21)による、

話題の理解は日本語の重要な概念です。大雑把に言えば、文の話題は何かについての文です。話題は、様々な話題マーク装置を用いて提示されています。これらのうち、「は」が最も頻繁にマークされています。

話題と主語は統語論と意味論に密接に関連しています。話題は意味論から知っているほうがよい。しかし、主語は統語論から知っているほうがよい。

本論

著者が 51 の資料の詳細を検討し、同じ文の話題と主語は 26 文、違う文の話題と主語は 16 文、主語が消えたの文は 9 文であった。

ここで研究されている資料のいくつかの例は以下の通りである：

1. (18) 北陸地方は本格的な雪の季節を迎えます。(MMS, 1993:70)

それぞれが 1 つだけの関数の構文を持っているので、単一の文である。「北陸地方は」は助詞をマークしているため主語としては「は」。「本格的な雪の季節を」は対象語であるから、助詞「を」で表す。そして、「迎えます」は行動の言葉あるので、述語になる。話題は「北陸地方は」の単語ですから、助詞「は」でマークする。

意味論の観点から分析し、上記の文は冬に閉鎖された地方があるという状態を伝える意味を持ち、場所は北陸地方です。それは意味論にも「北陸地方は」は話題の文になる。また、「北陸地方は」は文の場所を示しています。したがって、文 1 は話題と主語が同じです。

2. (21) 今、日本人の多くが米の心配をしています。(TNJ 2, 1994:17)

「今」の時間の状況語であり、主語は「日本人の多くが」で、示された助詞は「が」である。対象語は「米の心配を」で、示されている助詞は [を]、および述語は「しています」ある。その文は、各関数の構文 1 のための単一の文である。

話題の文が密接に文の意味に関連していたり、統語論の観点から見ることができるだけでなく、意味論の観点からも話題を見ることができます。話題の文は「しています」動詞の目的である文と客観的役割で議論されている主なものであるため、対象語は「米の心配を」である。そして、主語と話題が違い、主語は「日本人の多くが」であるが、話題は「米の心配を」である。

3. (13) この日にはお母さんに赤いカーネーションやプレゼントをおくり、感謝の気持ちを表します。(MMS, 1993:32)

上の複数の文のパターンは K S P O O P です。主語が消えているが、それは主題の内容で理解されている。状況語が助詞「に」でマークされた、「この日には」の単語がある。対象語は助詞「を」でマークされた、「お母さんに赤いカーネーションやプレゼントを」の単語である。述語は「おくり」と「表します」の単語で、話題は「この日には」の単語であるから、助詞は「は」をマークします。

日本では、5月の第二週を母の日として記念する。その日に、日本人は母親に赤いカーネーションの花や贈り物を贈る。したがって、この文は話題が「この日には」です。「この日には」は5月の第二週が表すが、主語は消えている。

結論

同じ文の話題と主語は、しばしば出現した助詞「は」によって主題マーク助詞と同様の話題マーク助詞としての二重の機能を持つ。言葉の意味（意味論）を搭載し、主語は一番必要な文で説明されている場合、主語が話題になることができる。

違う文の話題と主語は、助詞「は」と「が」があって、主語が指摘することができる。助詞「は」も話題の文を指摘しますが、助詞「に」に貼りつきなければなりません。意味論は主語が対象の実行する人ですが、話題は文に含まれる多くの重要な事柄です。

消えた主語文は必ず話題を持っている。主語が書いてないが、話題として対象語または状況語になる。

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR	ii
DAFTAR ISI.....	iii-iv
BAB I PENDAHULUAN.....	1-7
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1-5
1.2 Rumusan Masalah.....	5
1.3 Tujuan Penelitian	5
1.4 Metode dan Teknik Kajian.....	5-6
1.5 Organisasi Penulisan	6-7
BAB II KAJIAN TEORI	8-20
2.1 Sintaksis	8-11
2.2 Semantik	11-14
2.3 Subjek	14-17
2.4 Topik.....	17-20
BAB III ANALISIS TOPIK DAN SUBJEK DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG.....	21-50
3.1. Kalimat yang subjek dan topiknya sama.....	22-36
3.2 Kalimat yang subjek dan topiknya berbeda	36-44
3.3 Kalimat yang memiliki topik yang subjeknya lesap	44-49
3.4 Tabel Rangkuman Analisis	49-50
BAB IV SIMPULAN.....	51-52

DAFTAR PUSTAKA	53-54
DAFTAR SUMBER DATA	v
LAMPIRAN I	vi-xvi
LAMPIRAN II	xvii-xxviii
SINOPSIS	xxix-xxxiv
CURRICULUM VITAE	xxxv

Daftar Sumber Data

1999. *Nipponia Nihon Hakken*. Edisi no 7.
- Saho, Sasawa. 1976. *Aijin Kankei*. Tokyo: Kobunsha.
- Usuda, Atsuko; dkk. 1993. *Moons, Month, and Seasons*. Tokyo: Apricot.
1994. *The Nihongo Journal 2 Edisi February*.
1993. *The Nihongo Journal 5 Edisi May*.
1994. *The Nihongo Journal 5 Edisi May*.
- Kyotaro, Nishimura. 1986. *Tokkyu Azasusa Satsujin Jiken*. Tokyo: Kobunsha.
- Makino, Seichi & Tsusui, Michiyo. 1989. *A Dictionary of Basic Japanese Grammar*. Tokyo: The Japan Times.
1992. *The Nihongo Journal 11 Edisi November*.
1992. *Japanese Life Today*. Tokyo: 3A Corporation.
1992. *The Nihongo Journal 12 Edisi December*.
1993. *The Nihongo Journal 3 Edisi March*.
- Tamiko, Shimizu. 1991. *Aribaba to 40 nin no touzoku*. Tokyo: Kin no Seisha.